



## Kanako Abe (Conductor, Composer, Pianist) 阿部 加奈子 (指揮、作曲、ピアノ)

オランダ在住。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、パリ国立高等音楽院にて作曲に関連する6つの課程とともに日本人として初めて同音楽院指揮科で学び、フォンティス総合芸術大学大学院指揮科(オランダ)にて修士号を取得。

これまでに作曲を永富正之、管弦楽法をマルク＝アンドレ・ダルバヴィ、楽曲分析をミカエル・レヴィナス、ピアノと伴奏法をジャン・ケルネル、指揮をジョルト・ナジ、ヤーノシュ・フルスト、ファビオ・ルイーゼ、エティエンヌ・シーベンスなどに師事。

パリ国立高等音楽院在学中より、ヨーロッパを活動の拠点に、指揮者、ピアニスト、作曲家として多方面で活躍する。2005年にはパリ管弦楽団やアンサンブル・アンテルコンタンポラン等のメンバーからなる現代音楽アンサンブル「ミュルチラテラル」を創設、2014年まで音楽監督を務める。また、その間にチューリッヒ歌劇場やモンパリエ国立歌劇場でファビオ・ルイーゼ、エンリケ・マッツォーラ、ロレンス・フォスター等のアシスタントを務める。これまでにギャルド・レピュブリケーヌ管弦楽団、イル・ド・フランス国立管弦楽団、モンパリエ国立管、ロレーヌ国立管、ルーマニア放送響、ジュネーヴ室内管など、日本国内では東京フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、兵庫芸術文化センター管、大阪響、広島響、群馬響などと共演している。2019年6月には東京オペラシティ文化財団主催「武満徹作曲賞」本選演奏会の指揮者に抜擢され、2021年5月に2度目の登場を果たした。2015年より Tokyo Ensemble Factory、2019年よりアンサンブル室町のミュージック・パートナーを務める。また2022年9月よりフランス・ドーム交響楽団音楽監督、2024年9月より同楽団芸術監督就任が決まっている。



© Ryota Funahashi

2022年7月には、ブシュラ・エル＝トゥルクの新作オペラ「Woman at Point Zero」の世界初演でエクサン・プロヴァンス音楽祭にデビュー、2023年6月にはコヴェントガーデン王立歌劇場へのデビューが決まっている。また2023/24年のシーズンでは、2023年9月に新日本フィル・定期演奏会、2024年1月と2月に藤原歌劇団本公演への出演が決まっている。

これまでに IRCAM との提携、ラジオ・フランスへの録音をはじめ、ストラスブール音楽祭、ヴェネツィア国際現代音楽祭などで160曲以上の世界初演の指揮を手がける一方、自身も作曲家としてのキャリアを歩み続けており、2025年には遠藤周作の小説「沈黙」を原作とするオペラ「パドレ」が作曲者自身の指揮によりフランスの複数の歌劇場で上演される予定である。

音楽メディアでは、これまでに「レジス・カンポ Pop-Art」(æon)をはじめ、ヴォデニチャロフの室内オペラ「雪女」(Gega New)など12枚のCDをリリースしている。また、ラジオ・フランスへのレコーディングも定期的に行っており、2012年に指揮者として参加したセバスチャン・リヴァスのラジオオペラ「幻覚の夜」はイタリア放送協会主催の国際番組コンクールで最高賞であるイタリア賞を受賞した。

社会貢献活動では、2011年3月の東日本大震災発生直後、「パリ・東日本大震災チャリティーコンサート実行委員会」を自ら結成、趣旨に賛同したフランス在住の有志音楽家からなる「ジャポネードオーケストラ」を指揮し、同年4月10日にユネスコ・パリ本部国際第一会議場にて、チャリティー演奏会を実施し、この様子はメディア等でも大きく取り上げられた。

阿部加奈子公式ホームページ：<https://www.kanakoabe.com/jp/>

(2022年11月15日現在)